

⑭～⑮の8名は、怒りの気持ちより、「秋になったら、みかんくわせる。だからすこし待ちな。」のように推測している。書かれていることからの正確な読みではない。

⑫～⑬ 文から離れている。

⑰～⑱ これも文から離れている。読みなおしをさせる必要がある。

○ 上記のような想像は、どのことばから、そのように思ったのか調べてみた。

どのことばから そう思ったのですか	
① 「こらっ」ということば	23
② 「とってみようか」	
そっと 手をのばしました	7
③ うでまくり	6
④ 大きな声	3
⑤ つっ立って	2

これをみると、子どもたちは、地の文より、会話文に強く引かれることがわかる。ところで、「こらっ」ということばからは、「或る行為を止める。とがめる。怒っている」というような意味がでてくるので、そのようなことを想像しているのかと思うと、違うのである。次の表をみると、そのことがわかる。

「こらっ」ということばから思ったこと	
① たべさせたくない	3
② わるいきもち	1
③ おこっている	4
④ こわいきもち	1
⑤ どろぼう小ぞうめ	1
⑥ やめろ	1
⑦ とるとすっばいぞ	3
⑧ まだとってだめだ	5
⑨ 秋になったらくわせる	1
⑩ どろぼうのはじまりだ	1
⑪ しょうのないやつらだ	1
⑫ みかんがかわいいそう	1

③・⑥・⑦・⑧などが直接的な読みである。

②・⑪・⑫などは、ふさわしくない読みであろう。

ここでのおしょうさんの気持ちは、次の二つの

うちの、どちらであると解釈すればよいのであろうか。おしょうさんは、本気になって怒っていると解釈するか、本気で怒っているのではなくて、おどすためにそのような態度を示しただけであると考えるかである。

怒っていると読みとっているものと、怒っているようにして、たしなめているのだと読みとっているものがある。おしょうさんの他の行動・心情などと関連させて、読み深めなければならない。

(3) にげだして、しばらくいってからの子どもたちの気持ち。

文章には直接表現されていないので、文脈から想像することになる。

<みんなは、ばらばらと にげました。>と書いてある。大声をたてられて、こわくて、夢中で逃げ散ったのである。しばらく逃げていって、四人が集ったとして、何を話したと思うか書いてもらった。(次のページ)

①～⑮は、おしょうさんに対しての気持ちである。ほとんどが、「こわかった」という読みとりをしている。

⑯～⑳ またいって見ようと考えているという読みとりである。叱られてこりごりだという気にはなっていないと見ている。これは、後で、何回もいくことになっているからであろう。

㉑～㉓ みかんを取る話をしたという読みとりである。

㉔～㉖も、取ってやろうと考えているという読みである。これは、「つぎの日もまたあつまりました」とあるので、とる相談をしたに違いないと推測している。どちらかといえば、とらせなかったおしょうさんに、非があるような考え方である。

「とって みようか」「うん」いちろうがそっと手をのばしました。——という表現を注意して読めば、どうしても取るのだという気持ではないことがわかるはずである。

㉗～㉙ 読み違っているといえよう。よく、「いやなきもち」と書く子がいるが、よくわからない